

## JC-SAT 2001 会議報告

電子情報通信学会 衛星通信研究専門委員会委員長 水野 秀樹

AIAA 衛星通信フォーラムと電子情報通信学会通信ソサイエティ衛星通信研究専門委員会 (SAT 研) は, IEEE 通信ソサイエティ (IEEE ComSoc), 韓国衛星産業会 (KOSST), 韓国通信学会 (KICS) と共催し, 2001 Joint Conference on Satellite Communications (JC-SAT 2001) を 2001 年 10 月 23 ~ 24 日の 2 日間, ATR (京都府精華町) にて開催した。この会議は, 衛星通信, 宇宙技術の進展を目的とし, 昨年の韓国における開催に引き続き, 本年度は日本で開催されたものである。

韓国は, '99 年に 3 トン級大型通信 / 放送衛星の KOREASAT 3, 多目的低軌道衛星 KOMPSAT-1 を打ち上げて以来, 衛星搭載機器, バス技術を着実に開発するとともに, 衛星通信ネットワーク及び地球局端末の開発に力を注ぎ, 衛星通信システム技術力の強化に努めている。一方, 日本では, 8 月末に HIIA ロケットの成功により, 商用ロケットへの第一歩を踏み出すとともに, 14 機の通信 / 放送衛星にて, 衛星の特徴を生かしたコンテンツ配信等, 各種衛星通信・放送サービスを着実に展開しつつある。さらに, 日本独自のシステムとして, 24 時間周期ながら, 静止軌道ではない軌道を用いた準天頂衛星通信システムが提案され, 日本以外にもアジア・オセアニア地域へのサービスエリア拡大の可能性を有している。今後, 日本が衛星の特徴を活かしたサービスを国際的に展開する上で近隣諸国との協力関係を持つことがますます重要であり, アジア地区の衛星通信先進国である日本と韓国が交流を深めるために, 本会議は一つの有益な場を提供したと言える。

会議は, SAT 研水野委員長, KOSST Kim 会長によるオープニングの後, 慶応大学 笹瀬教授と Korea Telecom Han 副社長による 2 件の基調講演を皮切りに 8 セッション 32 件の講演が行われた。

講演は, 韓国における宇宙技術 R&D,



オープニングで挨拶に立つ水野 SAT 研委員長

KOREASAT-3 を使った各種実験, 日本と韓国の衛星通信共同実験, NeLS といった各種プロジェクト, マルチメディア衛星通信システムの構築とその技術, 移動体衛星通信を想定したネットワーク制御技術, 衛星追尾アンテナ技術, 衛星通信におけるデジタル処理技術等の最新の研究成果が報告され, 韓国での衛星通信システムの研究開発の取り組みが良く把握できるとともに, 日本側よりの発表としては, 移動体衛星通信関係の研究成果が多かったことが特徴的である。各論文は, 電子情報通信学会技術研究報告 (信学技報 Vol. 101.No. 379, 380) に掲載されているのでご覧頂きたい。

本会議には日本側からの 30 名も含めて, 講演者, オーガナイザ, 聴講者を合わせて総勢 60 名程度が参加し, 大変盛況であった。

会議初日にはレセプションが開かれ, セッションでの発表に関する議論が引き続き行われるとともに, 日韓の参加者が衛星通信の将来像や協力関係などについて和やかに意見交換がなされた。

2002 年度は, 再び韓国での開催を予定している。詳しくは, SAT 研ホームページ (<http://www.ieice.org/cs/sat/jp>) で確認いただくか, メールで問い合わせを頂きたい。(sat@ieice.org)